

平成24年度 国立江田島青少年交流の家教育事業

野外活動指導者養成講座実施報告書

【趣 旨】 青少年団体指導者及び野外活動に関心を持つ青年などが、野外活動に必要な知識・技術について研修し、指導者としての実践力を身に付ける。

* 法人ボランティア養成カリキュラム・自然体験活動補助指導者養成カリキュラムを兼ねる。

【主 催】 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立江田島青少年交流の家

【期 日】 ①指導者養成編

第1回 平成24年 5月19日(土)～ 5月20日(日) (1泊2日)

第2回 平成24年 6月16日(土)～ 6月17日(日) (1泊2日)

第3回 平成24年 6月30日(土)～ 7月 1日(日) (1泊2日)

②活動実践編

第1回 平成24年 9月19日(水)～ 9月20日(木) (1泊2日)

第2回 平成24年11月 9日(金)～11月11日(日) (2泊3日)

第3回 平成24年11月23日(金)

【実施会場】 国立江田島青少年交流の家

【対 象】 青少年団体指導者、野外活動に関心がある青年等

【参加人数】 ①指導者養成編9人 ②活動実践編9人

【講 師】 社団法人日本キャンプ協会 キャンプディレクター1級 鍋 島 一 仁
広島大学大学院教育学研究科 教 授 林 孝
広島女学院大学国際教養学部 教 授 木 本 浩 一
広島女学院大学宗教部事務課 課 長 小 田 長
大柿自然環境体験学習交流館 館 長 西 原 直 久
日本赤十字社広島県支部 救 急 法 指 導 員 村 賀 潤 子
国立江田島青少年交流の家 企画指導専門職

【企画・運営のポイント】

- (1) 広島大学、広島女学院大学と連携して事業の企画・広報を行う。
- (2) 単なる知識・技能の習得に終わるのではなく、野外活動に必要な知識・技術について体験的に学び、身に付けた知識・技術を生かして、実際に小学生を対象としたキャンプを企画・運営することで、指導者としての資質を向上させることをねらう。
- (3) 地元の複数の組織・団体と協力し、「体験を通して学ぶ」「関わりを通して学ぶ」「ふりかえりを通して学ぶ」ことをキーワードに事業を展開する。
- (4) 活動実践編では、受講者が自主的に小学生キャンプの準備を進めることが出来るように支援を行う。準備の状況を把握するための連絡会を広島大学、広島女学院大学で行う。

【活動の実際】

①指導者養成編

| | | | | | | | | | |
|--------------|-------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------|----------------------------|-------|
| 5月19日 (土) | 10:00 | 10:40 | 12:10 | 13:10 | 14:10 | 17:00 | 19:00 | 21:00 | |
| | 受付 | 開講式 オリエンテーション | キャンプの特性 【鍋島】 | 昼食 | キャンプの歴史・指導者・安全 【鍋島】 | キャンプ用具の使用法とテント技術 【鍋島】 | タベのつどい 夕食 | 対象や目的に応じた指導内容と指導技術 【鍋島】 | 入浴・就寝 |
| 5月20日 (日) | 9:00 | 12:00 | 13:00 | 14:30 | 15:00 | | | | |
| | 朝のつどい・朝食・清掃 | 救急救命法 【日本赤十字社 救急法指導員】 | 昼食 | 青少年教育施設におけるボランティア活動の理解 【小田】 | ふりかえり | | | | |
| 6月16日 (土) | 10:00 | 10:10 | 11:40 | 12:40 | 15:40 | 17:40 | 18:40 | 21:00 | |
| | 受付 | オリエンテーション | 青少年教育の理解 【林】 | 昼食 | 海辺の生物観察 【西原】 | 教育課程と体験活動の関連性 【林】 | 夕食 | 情報交換会 | 入浴・就寝 |
| 6月17日 (日) | 9:00 | 12:00 | 13:30 | 15:30 | 16:00 | | | | |
| | 朝のつどい・朝食・清掃 | カッター研修 【職員】 | 昼食 | キャンプの計画・運営・評価 【鍋島】 | ふりかえり | | | | |
| 6月30日 (土) | 10:00 | 10:10 | 12:10 | 13:10 | 14:40 | 17:00 | 17:30 | 21:00 | |
| | 受付 | オリエンテーション | 野外活動プログラムの企画・立案① 【職員】 | 昼食 | 青少年教育施設の現状と運営 【職員】 | 野外炊事法 【職員】 | タベのつどい | 野外炊事演習 【職員】 | 入浴・就寝 |
| 7月1日 (日) | 9:00 | 10:30 | 12:30 | 13:30 | 15:00 | 15:30 | 16:00 | | |
| | 朝のつどい・朝食・清掃 | ボランティア活動の意義 【木本】 | 学校教育における体験活動の意義 【林】 | 昼食 | 野外活動プログラムの企画・立案② 【職員】 | ふりかえり | 閉講式 | | |

②活動実践編

| | | | | | | | | | |
|--------------|-------------|----------|----------|----------|----------|--------------|----------|-------|--|
| 9月19日 (水) | 10:00 | 10:30 | 12:00 | 13:00 | 17:00 | 19:00 | 21:00 | 22:30 | |
| | 受付 | 開講式 | グループワーク① | 昼食 | グループワーク② | タベのつどい 夕食 | グループワーク③ | 入浴・就寝 | |
| 9月20日 (木) | 9:00 | 12:00 | 13:00 | 15:00 | 15:50 | | | | |
| | 朝のつどい・朝食・清掃 | グループワーク④ | 昼食 | グループワーク⑤ | ふりかえり | | | | |

*グループワークは、『小学生キャンプ』のプログラムの企画・立案・準備を行います。
 (『小学生キャンプ』は、江田島市内の小学生4～6年生を対象に募集を行います。)

| | | | | | | | | | | |
|---------------|-------------|-----------|-------|-----------|-------|-------|-------|--------|-------|--------------------|
| 11月9日 (金) | 15:00 | 17:00 | 19:00 | 21:00 | 22:30 | | | | | |
| | 準備 | つどい・夕食 | 準備 | 入浴・就寝 | | | | | | |
| 11月10日 (土) | 9:00 | 12:00 | 13:00 | 13:30 | 14:00 | 17:00 | 19:00 | 21:00 | 22:00 | |
| | 朝のつどい・朝食・清掃 | ミーティング・準備 | 昼食 | 『小学生キャンプ』 | | | 活動① | つどい・夕食 | 活動② | 入浴 就寝 ミーティング |
| 11月11日 (土) | 9:00 | 12:00 | 13:00 | 14:00 | 15:00 | 15:50 | | | | |
| | 朝のつどい・朝食・清掃 | 活動③ | 昼食 | 閉会式 | 後片付け | ふりかえり | 解散 | | | |

* 網掛け部分で、『小学生キャンプ』を実施します。

| | | | | | | |
|----------------------------------|-------|---------|-------|-------|-------|-------|
| 11 月 23 日 (金) (祝) | 10:00 | 10:30 | 12:00 | 13:00 | 15:30 | 15:50 |
| | 受付 | グループワーク | 昼食 | ふりかえり | 閉講式 | 解散 |



キャンプ用具の使用法と
テント技術



「海辺の生物観察」



「救命救急法」



「カッター研修」



「対象や目的に応じた
指導内容と指導技術」



「野外活動プログラムの企画・立案」



小学生キャンプ
「団結キャンプ開会式」



小学生キャンプ
「NIGERO」



小学生キャンプ
「謎解きミッション」

【成果】

- (1) 受講者が企画した小学生キャンプ「団結キャンプ2012」には、定員24名をはるかに上回る75名の小学生の応募があった。プログラムも、ストーリー性があり、サプライズに富んだ内容で、参加した小学生は大満足であった。受講者がねらいとしていた小学生同士の団結を深めることが出来、指導者としての実践力を向上させることが出来た。
- (2) 講座修了後の受講者のアンケートには次のような記述が複数あった。「講義や演習を通して、企画を立てる時の新たな視点を得る等、様々な視点から学びを深めることが出来た。」「子どもたちとの関わりが楽しかった。また、関わりを通して学ぶことが多くあった。」「反省までしての活動だと思う。」これは、学んだことを生かし、小学生キャンプを企画・運営する中で指導者としての実践力を身に付けるという本事業のねらいと合致するものである。
- (3) 本講座をきっかけに、受講生同士が自主的に当交流の家を利用して自然体験学習を行う姿が見られた。
- (4) 事業を通して、広島大学や広島女学院大学との連携がより強固になったほか、地元の組織・団体との連携が深まった。